

## 第1回（仮称）塚田第二小学校の通学区域（案）に関する地域説明会の会議録

1. 開催日時       平成29年8月5日（土）午後7時00分～8時35分  
                      8月6日（日）午後1時00分～2時29分
2. 開催場所       塚田公民館 講堂
3. 参加人数       8月5日（土） 102人  
                      8月6日（日） 111人

（司会）

それでは、第1回（仮称）塚田第二小学校の通学区域（案）に関する地域説明会を開催いたします。

次第に沿って進めさせていただきます。

まず、出席者の紹介をさせていただきます。

職員紹介後

続きまして、学務課長よりご挨拶させていただきます。

（学務課長）

本日は（仮称）塚田第二小学校の通学区域に関する地域説明会にお集まりいただきましてありがとうございます。

説明会を始めるにあたりまして、一言ご挨拶を申し上げます。

船橋市教育委員会では西部地域において増加する児童生徒数に対応するため、行田一丁目に小学校を新設する計画を進めています。

開校は平成33年4月を予定していますが、開校に伴いまして、新設小学校の通学区域を設定し、併せて周辺小学校の通学区域の見直しを検討しているところです。

小学校の新設や通学区域の変更は、通学する児童はもちろん、保護者や地域の皆様にも大きな影響を与えるものですので、今後も引き続き、このような地域説明会を開催していきたいと考えております。

本日は、まずその初回ということで、新設小学校、「（仮称）塚田第二小学校」と現在は言っておりますけれども、その通学区域の案についてご説明をさせていただきます。この案は、現在、学区審議会にも諮問している案でございます。

説明のあとには質疑応答の時間も設けていますので、ここでいただいたご意見も踏

まえながら、丁寧な検討を進めてまいりたいと考えております。

本日はどうぞよろしくお願いいいたします。

以上、簡単ではございますが、私からのご挨拶とさせていただきます。

(司会)

それでは、次第3の「通学区域(案)について」に移りたいと思います。学務課長より説明させていただきます。なお、質疑応答につきましては、説明終了後に時間を設けておりますので、よろしくお願いいいたします。

(学務課長)

それでは、(仮称)塚田第二小学校の開設に伴う通学区域の変更案につきまして、ご説明させていただきます。

まず、通学区域が決定される過程からご説明いたします。教育委員会では、今回の通学区域案に限らず、どこかの学校の通学区域の見直しが必要な場合、船橋市学区審議会という附属機関に諮問し、審議いただいております。船橋市学区審議会とは、船橋市学区審議会条例に基づき設置される審議会で、校長会や、PTA 連合会、警察、自治会連合協議会などの関係団体より推薦いただいた方など10名の委員から構成されています。学区審議会では審議を重ねた結果、まとめられた答申を受けます。教育委員会は、受けた答申の内容を踏まえ、教育委員会会議において、通学区域を決定していきます。

先程少しふれましたが、この度の(仮称)塚田第二小学校開設に伴う通学区域の変更案につきましては、既に先月24日(月)に開催されました平成29年度第1回学区審議会に諮問しており、継続して審議されることが決定しております。本日と明日の説明会でいただいた意見・ご質問については、次回の学区審議会にご報告させていただきたいと考えております。

それでは、具体的な説明に移らせていただきます。ご覧いただくページが若干、行き来いたしますが、ご了承くださいませようお願いいいたします。

まず、2ページから4ページは、(仮称)塚田第二小学校開設に伴い変更となる通学区域案について、要点をまとめた資料ですが、全体像が把握しにくいかと思いますので、地図によりご説明いたします。

それでは、5ページをご覧ください。A3サイズの資料で、(仮称)塚田第二小学校建設予定地周辺地域の現在の通学区域図でございます。この資料は、これからご説明いたします、(仮称)塚田第二小学校の通学区域図(案)との比較として、ご覧いただきたいと思いますが、今回の案で通学区域見直しの対象となっている学校は、行田東小学校、塚田小学校、市場小学校、八栄小学校、海神小学校、船橋小学校の6校で

ございます。

では、ページをめくっていただき、6ページ、(仮称)塚田第二小学校通学区域図(案)をご覧ください。

A3サイズの資料の中央あたりの赤い線で囲まれたエリアが(仮称)塚田第二小学校通学区域(案)となります。また、合わせて通学区域の見直しを検討している場所についても、吹き出しにより示しております。赤線内にあります、「AGCテクノグラス跡地」とあるところの、白抜き場所、ちょうど「跡地」とある付近ですが、この辺りが小学校建設予定地でございます。ここに平成33年4月の開校を予定しております。ちなみに、この「AGCテクノグラス跡地」の現在の通学区域は行田東小学校でございます。

はじめに(仮称)塚田第二小学校建設予定地周辺地域にある課題についてご説明いたします。まず、この「AGCテクノグラス跡地」区域内に700~800戸程度の集合住宅等が開発される計画があり、一定規模の児童の居住が推測されております。また、AGCテクノグラス跡地に先行して、新船橋駅周辺に開発されました森のシティに居住するお子様は、現在、離れた学区となっている市場小学校に通学しておりますが、就学前のお子様は今後徐々に小学校入学年齢に達していくため、市場小学校での受入れが困難となる可能性が高いと思われまます。

しかしながら、この地域周辺の既存小学校には施設的な余裕がないため、これらのお子様を一体として受け入れる小学校が必要となります。これが、小学校を新設する理由でございます。

加えて、今回、開発される「AGCテクノグラス跡地」に近接する北本町2丁目、地図上では「AGCテクノグラス跡地」の右側の、緑色、その下のオレンジ色の大部分、その右側の紫色の辺りでございます。ここは、現在、船橋小学校、海神小学校、八栄小学校、塚田小学校、行田東小学校の5つの学校から通学する学校を選択する地区となっております。この5校から1校を選択するという点について、当該地区の町会・自治会の方々から、「行事等の活動における地域のまとまりという点から、選択学区では無いようにしてほしい」との声をいただいております。このことから、今回新設小学校の通学区域案を検討するにあたり、地域コミュニティを重視し、可能な限り指定校を定めていくことが望ましいと考えたところです。

通学区域案をまとめる過程としましては、まず、只今ご説明いたしました課題を踏まえた「素案」をまとめ、その内容について、関係する小学校の学校評議員やPTA役員や学校長、それから地域の町会・自治会の役員の方々へご説明してまいりました。そこで、いただいた意見を反映・修正したものを、「通学区域案」として本日ご説明し

ております。

(仮称) 塚田第二小学校の通学区域案の基本的な考え方としましては、最初に、集合住宅等が開発される予定のAGCテクノグラス跡地と新船橋駅周辺の森のシティ、森のシティの北側に隣接する北本町1丁目、それから、AGCテクノグラス跡地と森のシティ両方に隣接する北本町2丁目の全域を通学区域とした場合を検討いたしました。しかしながら、この場合、30クラスを大幅に超える、過大規模校となってしまいう推計結果となってしまったことから、区域の縮小を検討せざるを得ませんでした。そこで、北本町2丁目に居住するお子様が現在の選択可能な5校の中から、どこの学校に通学しているのかを分析してみたところ、一定の傾向があることがわかり、(仮称) 塚田第二小学校の開校後の学校運営に配慮した学校規模とするために、現在、塚田小学校にその多くのお子様が通学している北本町2丁目の北側を、やむを得ず、分ける案としました。

ここで、資料を1ページめくって、7ページをご覧ください。標題が「北本町2丁目の通学区域(案)」というものです。

この資料は、只今ご覧いただいたA3の通学区域案の資料のうち、北本町2丁目のエリアを拡大したものです。只今ご説明しましたとおり、北本町2丁目に居住するお子様の小学校の選択状況をもとに、緑色の「A、塚田小学校区」とオレンジ色の「B、新設小学校区」と紫色の「C、八栄小学校と塚田小学校との選択学区」と分けたものです。

北本町2丁目の北側エリアは、表のとおり数多くのお子様が塚田小学校に通学していることから、「A、塚田小学校区」として分けることとしましたが、分ける際には、地域コミュニティへの影響を少なくしたいとの思いから、可能な限り町会・自治会を分断することがないように努めております。

また、「C」地区のみが、八栄小学校と塚田小学校との選択となっていることにつきましては、「C」地区の多くのお子様が、現在、八栄小学校に通学していることを踏まえたものでございます。

本来、通学区域と学校との位置関係としましては、通学区域として設定した範囲の中心あたりに学校が位置し、全方向から児童生徒が通学してくることが望ましいことです。

しかしながら、この度の(仮称) 塚田第二小学校の通学区域案においては、只今申し上げました課題解消や開校後の教育環境が損なわれないような学校規模にするなどへの対応を重点に検討した結果、学校建設予定地が通学区域の中心に位置しない案になっていますが、只今ご説明させていただきましたこの地域の課題に対応したものでございます。ご理解いただきたいと思いますと考えております。

ここまでご説明させていただいた変更案の詳細な番地を示したものが、8ページから12ページの資料となります。このうち、8ページから10ページが変更案を学校別に示した新旧対照表(案)、11ページが北本町の、12ページが行田の番地別に指定学校を示した通学区域表(案)となります。

ちなみに、13ページの児童推計資料のとおり、この通学区域案に基づき推計した結果、平成33年の開校時に、クラス数が30、児童数がおよそ1000名という規模の学校としてスタートすると推計しております。

それでは恐れ入りますが、ここで、再び、6ページの(仮称)塚田第二小学校通学区域図(案)をご覧ください。今回開発されるAGCテクノグラス跡地については、新設小学校開校に合わせて、通学区域を現在の行田東小学校から(仮称)塚田第二小学校へ変更する案についてご説明いたしました。これに関連した内容になりますが、赤い線の中の「AGCテクノグラス跡地」の開発区画の南側のくぼみの部分についてのご説明でございます。ちょうど「跡地」内の小学校建設予定地の白抜きのすぐ南側の下線に接したくぼみです。

少し判りにくいかと思しますので、只今、拡大図でお示しいたしますので、ご確認ください。(拡大図を示す。)

この小学校建設予定地のすぐ南側には、現在、戸建住宅と工場があります。この場所は、今回の開発エリア外となるので、基本学区は引き続き行田東小学校として、変更しないこととしております。しかしながら、この場所のみが、現に新設小学校建設予定地に接することになる区画であることから、希望すれば、(仮称)塚田第二小学校を選択できるようにすることを検討しております。

続きまして、平成33年4月の新設小開校時における転校について、検討しました案について、ご説明いたします。戻って、4ページをご覧ください。

教育委員会としましては、(仮称)塚田第二小学校開校時に各学年の児童が在籍していることが、委員会活動や行事等の学校運営上望ましいと考えているため、(仮称)塚田第二小学校の通学区域内及び当該小学校開校に伴い見直される通学区域内に居住する、既に小学校に入学しているお子様については、平成33年4月の(仮称)塚田第二小学校開校に合わせて、それぞれの指定された小学校へ転校していただくことを原則としたいと考えております。

しかしながら、一定の配慮も必要であると考えております。

今現在の案としましては、現1・2年生は開校年度に新5、6年生になっておりますが、小学校入学時点で新設小学校開設のことを知らずに入学していることや現在の在籍校での生活が長いことなどから、希望により現在の在籍校を卒業するまで通学し続けることを選択できるようにしたいと考えています。また、新5、6年生が転校し

ないで現在の在籍校に通う選択をした場合は、その弟妹についても、希望により、自身が卒業するまでの間、兄弟と同じ学校に通学し続けることを選択できるようにしたいと考えています。

さて、本日、地域説明会を開催させていただきましたように、平成33年度開校予定の小学校の通学区域案を今年度からご説明を始めることとした意図としまして、関係する小学校が多く、多くのお子様に影響がございますので、可能な限り周知期間を長くとりたいということがございます。

このようなことから、来年度、小学校に入学予定の新1年生のいらっしゃる世帯に対しましても、通学区域案のご案内を始めたいと考えております。具体的に申し上げますと、新1年生は、今年の11月に入学予定校にて就学時健診を受けていただきます。

その日程のお知らせ文書を、10月中頃、教育委員会からご自宅に送付させていただく予定ですが、複数校の中から入学希望校を選択していただく地域にお住まいの方に対しては、この日程のお知らせ文書に先立ち、9月上旬頃に、入学希望校を選択いただきご回答いただくための案内文書を送らせていただいております。

その際、本日の通学区域案のとおり、(仮称)塚田第二小学校の開校に伴い、通学区域の変更の可能性のある住所にお住まいの世帯に対しましては、平成33年4月に新設小学校ができること、それに伴い指定学校が変更となる可能性があることについてのご案内文を同封させていただきたいと考えております。

平成33年4月の新設小学校開校を見据えて、現時点でどこの小学校を選択したいか、じっくり検討したいという方もいらっしゃると思われれます。そのような場合には、1週間程度であれば入学希望校の選択期限を過ぎて回答いただいて構いませんので、この場をお借りしてご案内させていただきます。

それでは、最後になります。18ページをご覧ください。今後の予定でございます。冒頭に通学区域の決定過程をご説明いたしましたが、地域説明会を複数回、開催し、そこでいただいた意見を学区審議会で報告し、それを踏まえた審議を繰り返すといった過程を丁寧に進めてまいりたいと考えております。

次回の日程等については、現在調整中でございますが10月頃を予定しております。決まりましたら今回同様、関係する各小学校、近隣の幼稚園、保育園、地元町会・自治会、近隣の公共施設、市のホームページを通じてご案内させていただく予定です。次回の説明内容につきましては、今回の内容を踏まえて、検討したいと考えております。

説明は以上でございます。ご清聴ありがとうございました。

(司会)

続きまして、次第4「通学路について」です。保健体育課児童・生徒防犯安全対策室長より説明させていただきます。

(保健体育課)

新設小学校の通学路に関する説明をさせていただきます。

本日お配りいたしました、資料の14ページから17ページ「船橋市通学路交通安全プログラム」をご覧ください。

船橋市においては、通学路の安全対策を行うため、平成26年度「船橋市通学路交通安全プログラム」を策定いたしました。

このプログラムは、交通管理者である船橋警察・船橋東警察の交通課、道路管理者である船橋市道路部各関係課、市全体の安全対策を検討する市民安全推進課、教育委員会、学校、PTA、地域の方で市内各小学校等57校を対象とし、年度別に5グループに分けて年間12校程度、定期的に点検を実施しています。

またそれ以外にも必要に応じ緊急措置的に合同点検を実施し、できる安全対策を実施しています。

新設小学校の安全対策につきましても、開校前に想定される児童の通学路について、関係機関と合同で危険箇所の点検整備を行っています。

また、開校初年度に、学校、PTA、地域の方々も含めたうえで、当プログラムに基づく点検を実施し、更なる通学路の安全対策を行っています。

今般の(仮称)塚田第二小学校の通学路につきましても、平成29年6月29日関係機関である警察、道路部、教育委員会で、想定される通学路における交差点等の危険箇所について確認を行いました。

東武線沿線の歩道につきましても確認をしたところでございます。

この沿線の歩道につきましては、「サンランド船橋ゴルフ練習場」までの道路は、東武鉄道側のご協力により高架側に拡張を進めているところでございます。

しかしながら、それより北側の「湯楽の里」までにつきましては、現状においては早急な拡張は困難と聞いております。

このことから、現在、この件を踏まえた上で通学路の検討をしているところでございます。

また通学路は1つと限りませんので、分散した通学路を設定すること等も検討しているところでございます。

今後の通学路安全対策のスケジュールといたしましては、現在、平成33年度開校予定で進んでおりますので、平成30年、31年度で「船橋市交通安全プログラム」

により関係機関で現地を確認し、対策箇所を抽出、予算化し、平成32年度中には出来る安全対策を終了させたいと考えております。

現在、平成29年度ではありますが、交通管理者である警察、道路管理者である道路部関係課と現地を確認したところでございます。

また、学区確定前ではありますが、現在も直接現地を確認し、想定される通学路について検討を行っているところでございます。

(司会)

事務局からの説明は、以上になります。

続きまして、次第5の「質疑応答」に移りたいと思います。職員がマイクもって席まで伺いますので、質問のある方は挙手をお願いいたします。

**【 ご意見・ご質問・ご要望、それに対する回答は、9ページ以降を参照 】**

(司会)

以上で本日の説明会の次第は全て終了いたしました。

終わりに学務課長から一言ご挨拶申し上げます。

(学務課長)

本日はお忙しい中、お集まりいただきありがとうございました。

事務局では、本日お伺いした意見を持ち帰り、引き続き検討を行います。その結果につきましては、本日ご質問いただきお答えできなかった回答と併せまして、次回の説明会にてご報告させていただきたいと思っております。

先ほどの説明でも申し上げましたとおり、次回の説明会の日程については、市のホームページや、学校、町会・自治会や幼稚園、保育園を通じてご案内をさせていただきます。

(司会)

それでは、以上で質疑応答・意見交換を終わります。

皆さんからのご意見・ご要望につきましては、本日限りではなく、今後予定しております第2回説明会のほか、お電話やホームページからの入力等でもお受けしておりますので、よろしく願いいたします。

以上を持ちまして、第1回(仮称)塚田第二小学校の通学区域(案)に関する地域説明会を終了いたします。

本日はご参加いただき、誠にありがとうございました。気を付けてお帰りください。

【ご意見・ご質問・ご要望に対する回答】

《 8月5日（土） 》

Q 1	森のシティから（仮称）塚田第二小学校（以下「新設小学校」という。）までの通学路について、600人の児童が、東武線横の歩道を安全に通学できるはずがないと思う。その点について、どの程度まで対策を立てる方向でいるのか。
A 1	東武線沿いの道については、先ほどの説明でお話しさせていただいたような形で対策を考えています。通学路は、1つだけではなく北本町2丁目の中を通った通学路を含めて、子供達を分散させることを検討しているところです。現時点においても、警察・道路部・保健体育課で、交差点等を一緒に確認して「具体的にどの通学路を想定したら良いか」ということを検討しています。検討した後、平成30年度・31年度には予算化、32年度には具体的に対策を終えて、33年度の開校の時には安心して皆さんに通学をしていただけるような形で進めていきたいと考えています。警察・道路部など関係機関に対しては、出来る限りのお願いをしていきたいと考えています。

Q 2	平成33年度の30学級、1,009人という数は、5・6年生全員が新設小学校へ行くという数字なのか。それとも、他の学校に行くことを前提とした数字なのか。
A 2	「5・6年生については、希望すれば残ることもできる」と説明をしましたがけれども、推計上では、全員が学区通りに移るということで算出した数字です。

Q 3	AGCテクノグラスの跡地に700～800世帯との説明だが、当該世帯の児童も含めた推計となっているのか。
A 3	AGCテクノグラスの跡地に開発される世帯の分も含めた推計となっています。

Q 4	ゴルフ練習場の角の所に東武ストアの方へ曲がる交差点があり、ちょうど信号辺りのところで道幅が若干広がっている。そこが以前から広がったのか、工事をして広がったのか分からないけれども、歩道が斜めになっている。森のシティから小学校へ行く道を、そのような形で全て斜めに舗装することは止めていただきたい。
A 4	仮設なのか、そうではないのか、というところまでの確認は取れていないのですが、「斜めになっていて歩きづらい」という点については、現地を見て認識しています。いただいた件については、道路部に伝えさせていただきます。

Q 5	森のシティの子供は今後も増加していき、新設小学校が30学級以上になるとの説明だが、行田東小学校の人数は減少するのに、北本町2丁目を新設小学校の学区としているのは何故か。小学校の位置とそこへ通学する子供の住居が離れていることが好ましくないとしても、おかしいのではないか。
A 5	資料6ページの北本町2丁目のオレンジ色の地区からは、行田東小学校へ通っている児童が多いので、「この地区の児童が新しい小学校へ行くことで、行田東小学校の児童数が減少する」という点については、その通りです。しかしながら、オレンジ色の地区の児童が行田東小学校へ通学し、森のシティの児童が新設小学校へ通学するとなると、子供の行き来する方向がクロスしてしまう等の問題があります。また、学校と学区が出来るだけ1つに繋がっている状態を作ること、学校運営上大事ですので「AGCテクノグラス跡地の開発地区に北本町2丁目の南側と森のシティを付けて、一面で繋がるような学区とした」ということです。

Q 6	資料には33年度までの児童数しか載っていないが、34年度・35年度には、新設小学校の児童数がさらに増加すると思われるので、次回の説明会位までには、その数字を見せてほしい。
A 6	今後、追加でお示ししたいと考えています。 6年先まで計算していますので、新設小学校については、開校後も児童数が増加し、開校2年後の平成35年には、34学級1,143人という推計をしています。

Q 7	文部科学省は31学級を過大規模校としているとのことだが、31学級を越えた場合はどうなるのか。
A 7	31学級以上は過大規模ということで、出来る限り解消するよう努めなければいけないのですが、森のシティ等を上手に組み込んで案を作ると、どうしてもこれくらいの規模になってしまいます。「大きな規模になってしまっている」ということは分かっておりますけれども、総合的に考えてやむを得ないと判断し、このような形の案となりました。

Q 8	塚田小学校が31学級になると想定されており、実際に見学するとかなりひどい状態だが、「塚田小学校は満杯」ということは課題となっていないのか。今回の件は、学区割を考える上で非常に良いチャンスなのではないか。八栄小学校もかなり大人数の小学校となっており、バランスを良くしていかないと、塚田小学校も新設小学校も満杯の小学校となってしまう。しかし一方では、市場小学校も行田東小学校も児童数が減少するというのは、バランスが悪いのではないか。
A 8	イオンの横に日本建鐵の跡地の広い空地があるのですが、現在のところ、土地所有者からは今後の活用については白紙と聞いています。現在の通学区域としては、行田東小学校となりますが、大きさとして森のシティに匹敵するかやや小さい位の規模の宅地開発される可能性があります。塚田小学校・新設小学校・行田東小学校をならして、同じ位の25学級程度の規模とすると、また新たな開発となった際に、もう1度あらためて学区を再編することになりますので、この案が最良だと考えました。 市場小学校については、学校のすぐ北側にJRの社宅があります。JRからは「まだ計画はない」と聞いておりますが、再開発される可能性もあると思われれます。また、医療センターと市場小学校の中間程の位置では、区画整理の計画も始まっており、計画されている一部の地域は、現状で市場小学校の通学区域です。開発されるのはまだまだ先ではありますが、またそこも学区を変更しなければいけないかとも考えています。同じく区画整理の一部が通学区域となっている八栄小学校も一杯となっていますので、そういったことを踏まえて、ある程度は余力を残しておかないと、さらに学区変更が難しくなりますので、今回、このような案を提案しました。

Q 9	新設小学校に特別支援学級の設置は考えているのか。
A 9	種別はすぐにお答えできませんが、普通学級ではない学級の設置も考えています。

Q10	前貝塚町では、どんどん家が建っている。そのような状況を考えると、塚田小学校の児童数が今後も増加すると思われる。その点について、どのような意識なのか。「森のシティで手一杯で、塚田小学校のことまで考えられない」というような状態なのか。
A10	塚田小学校については、来年度の平成30年度に児童数が最も多くなると考えています。少しの児童数増加でもクラス数が変わる可能性があり、最多の場合、33学級になると推計しています。その後は大幅には減りませんが、徐々に減少していくものと考えています。教室の整備を行い、環境については出来る範囲で整えていきたいと考えています。

Q11	中学校の計画も進んでいるとは思いますが、中学校の説明会等については、また別途開催される予定なのか。
A11	中学校については、行田中学校の北側にある国家公務員住宅の跡地を市で取得しまして、平成38年度の開校を予定しています。これから小学生が増えていき、5年位遅れて中学校に上がることとなりますので、そのタイミングで次は中学校を作らなければいけないと考えています。まだ少し先の話となりますので、推計を注視しながら、もう何年かしてから、学校建設の時期と規模について検討することになると思います。

Q 12 - ①	新設小学校の正門はどこになるのか。
A 12 - ①	現在、設計を行っていますが、資料6ページの地図上で白抜き部分の東側になります。
Q12 - ②	東武線沿いの道路側になるということだが、その辺りにはあまり信号がない。信号を付ける予定はあるのか。
A 12 - ②	できれば正門の辺りに付けたいと考えており、現在、警察に協議をお願いしています。

Q13	AGCテクノグラス跡地に開発される新しいマンションから、何人の子供が新設小学校へ通うことになるのか。
A13	33年度の開校時、AGCテクノグラス跡地のマンションからは90人と見込んでいます。就学前児童がいる世帯が入居する形が多いと思いますので、最初は90人ですが、徐々に児童数は伸びてくると見えています。

Q14	新設小学校の児童数は平成35年に1,143名と推計しているとのことだが、この人数が最多になるという意味で、平成35年に1,143名という説明なのか確認したい。
A14	推計については、現在住民登録のある子供達が1歳ずつ年を取っていくことに加えて、その地域の社会増減等を考慮して作成しています。そのため、確かな点ということでは6年先が限界となります。 その先になりますと、まだ生まれていない子供を考えなければならないので、少しずつ増えてくる可能性もありますが、新設小学校の児童数は、平成35年よりもう少し後の平成36～38年辺りがピークで、その後は緩やかに減少すると推計しています。

Q15	新設小学校に学童保育の建設予定はあるのか。また、何名ほどの児童を受け入れる施設を作る予定なのか。
A15	放課後ルームは、併設で作る予定です。推計を作成している教育委員会と担当部署で連携しておりますので、想定される大きさを考えて建設します。

Q16	<p>平成33年に小学校4年生となる子供がおり、資料6ページの緑の地区に住んでいる。姉には、平成33年に小学校3年生となる子供がいて、オレンジ色の地区に住んでいる。家と家の距離は徒歩2分程度なので、きょうだいではないが、いところ同士で一緒に帰ってきてほしいと思っている。この場合も、オレンジ色の地区から新設小学校へ行かなくてはいけないのか、それとも選択出来るようになるのか、例外は認められるのか。</p>
A16	<p>通学区域につきましては、どうしても線引きと言いますか、きっちりとルールを決めなければなりません。ですから、原則は「1年生から6年生まで全員が移る」ということを考えています。それに対して「移らなくても良い」という基準は、平成33年度の小学校5・6年生と、その5・6年生のきょうだいの関係に限定させていただきたいという案を説明いたしました。</p> <p>今、いただいたお話しの場合は、「この基準案の中には入らない」ということとなります。しかしながら、様々なご事情を抱えているような場合もあるかとは思いますが、ご相談を個別にお受けしたいと思っております。ただ、決まりについては、極力守っていただくように進めているところです。</p>

Q 17 - ①	資料6 ページの緑の地区に住んでおり、3人の子供がいる。元々5校から選 択できるという条件だったので、上の子と小学校1年生の真ん中の子は、現 在、行田東小学校へ通っている。さらに下には、幼稚園に通っている子もい る。緑の地区に住んでいるので、塚田小学校へ転校しなければいけないとい う話だが、オレンジ色の地区に友達が多いので、友人関係も含めて調整はお 願いできないか。
A 17 - ①	現在、1年生のお子さんは、平成33年に5年生となりますので、行田東小 学校に残るか塚田小学校へ転校するか、選択することが出来ます。下のお子 さんにつきましても、きょうだい関係というルールにより、行田東小学校に 残ることもできます。
Q17 - ②	行田東小学校に残るとすると、オレンジ色の地区のお友達が行田東小学校か ら皆なくなる可能性がある。新設小学校には行けない。塚田小学校にも友 達は少ない。また、下の子も同様の状態が生まれる可能性がある。行田東を 中心に繋がっていたのが、突然、緑の地区に入れられたことで、行き場がな い状態となってしまう。 現在、上の子と真ん中の子は行田東小学校へ通っており、引き続き「行田東 小学校に残りたい」という可能性が高い。そうすると、一番下の子も「姉と 一緒に小学校に行きたい」と言うと思う。「何で私だけ塚田小学校なのか」と いう話になりかねないと思っているので、何か配慮をいただけると助かる。
A 17 - ②	全員の方にとって納得のいくルールとならず、大変申し訳なく思っています。 ルールについては、どうしてもお願いすることになってしまいますので、本 当に申し訳ないところです。ご事情は何っていかうと考えておりますが、現 在のルール案で申し上げますと、きょうだい関係を選択していただくか、周 りの子供達と一緒に塚田小学校へ通っていただくか、どちらかを選択いた だくということになってしまうかと思えます。

Q 18 - ①	行事が重なって、親が別々の小学校へ行かなければならないということが発生すると、1番困る。代表的なところでは、運動会が同日に別々の小学校となった場合、大変辛い。例えば、そのようなご配慮を当面いただくような検討はされているのか。
A 18 - ①	ご家庭によっては、同時期に違う学校へ通わせる選択をされることもあるかと思いますが。出来る限り、学校間で行事の調整を図っていききたいとは考えています。これが2校であれば、ある程度容易に行うことができます。しかしながら、関係する学校の組み合わせが、3校・4校になってきますと、この時点で「絶対に調整します」というお約束は難しいのですが、極力、可能な範囲での調整を、6～7年間位は続けなければいけないと思っています。けれども本当に申し訳ないのですが、調整校が多いということで、必ず出来ませすというお約束はできません。
Q 18 - ②	「お約束はできません」という回答になるのか、「やります」という回答になるのか。最終的に私たちが選択を行うまでに、「検討します」または「出来ません」という方向性だけは決めてほしい。
A 18 - ②	調整は必ず図ります。しかしながら、調整を図った上で、どうしてもずらせないということもあり得ます。もし出来ない場合には、詳しく説明をするようにいたします。

Q 19 - ①	資料6 ページの白抜き部分に隣接している場所は、新設小学校に行けるとい う説明であったが、私が住んでいる場所からも新設小学校が近いのに、わざわざ行田東小学校へ通わなければいけないというのが、腑に落ちない。新設小学校区の線引きを動かしていただくことは可能か。
A 19 - ①	現在の通学区域の線引きでも、学校の規模としてはギリギリの状態となっているという点もあります。新設小学校の南側は「道路の北側が行田、南側が山手」と、町としての区切りで線引きを行っており、そのような点についても配慮しています。また、今回どうしても通学区域の真ん中に学校ができないという事情もありますので、開発地区近くの住宅地に居住している方々についても、「近くの学校に行きたい」というご希望があるかと思えます。
Q 19 - ②	明らかに近いのに、わざわざ離れている学校へ行く必要があるのか、と思っている。「役所として、線引きしなければいけない」ということは分かるが、意見は聞いてもらえないのか。線引きは決定事項なのか。デメリットしか感じないが、折れろということか。
A 19 - ②	<p>当然、この場でいただいた意見については、学区審議会にもしっかりと伝えます。今回、このような案となりましたのは、近くにも沢山の住宅がありますが、基本的には「新しく開発される地区」という所で線引きをしています。ただその中で、「学校の壁に接する所の住宅」、そこだけについては選択できるようにしました。あとは、新しく開発される区域で線を引くことで、近隣住宅の方々にも「ここで切ります」とはっきりと線を示すということで、このような案になっております。</p> <p>「近く」という範囲をどこまで限定するか、ということになると思えます。どこかで線を引かなくてははいけませんが、線引きを道路1つ分ずらすかどうか、という点については、いただいた意見を踏まえた上で、学区審議会等の中で検討します。しかしながら、今回、示している案については「学校規模等を考慮した上でギリギリの線引きとなっています」ということは、お伝えいたします。</p>

Q20	AGCテクノグラス跡地の街びらきは2020年の夏くらいで、新設小学校の開校は2021年度になる。理論的に街びらきと同時に入居した児童は、一旦行田東小に通い、6か月位してから新設小学校に通うことになる。短期間だけ行田東小学校へ通って、6か月後に新設小学校へ移るということは、本人にとっても行田東小学校で友達になる児童にとっても、難しいところだと思う。例えば、「小学生の居る世帯は、街びらきの第2段階に誘導する」等の、6か月間のギャップを何とかフォローできるような方策というのは、考えられないか。
A20	街びらきが学校開設より少し早いということで、ご指摘されたような事態は、確かに起こります。しかしながら、これについては、周りの子と同じように、「平成33年度に小学校5・6年生だった児童は、そのまま現在の学校へ通うことができる。小学校4年生以下の児童は、新しい学校の学区であれば、そちらの学校へ通っていただく。」というように、同じルールの中で動いていただくことを考えております。

Q21	<p>先ほども質問した件ですが、私は資料6ページの緑の地区に住んでおり、オレンジの地区の友達とは別れてしまうという話です。私の家からの通学ルートとしては、AGCテクノグラス跡地の横を通って、行田東へ通っている。他の子供は手前で小学校へ入ることになるが、私の子供が通うとすると、ずっと突っ切って行田東小学校まで行かなければならない。私の子供も通学ルートが途中まで一緒なのに、突き抜けて行田東小学校まで行かなければいけない状態。「意見を学区審議会に上げます」ということだったので、その1つとして検討してほしい。先程より皆さんからも人数等の話がある中で、逆行している話ではありますが、一部でそういうこともあるということは、意見として汲んでほしい。</p> <p>また、平成33年を待たずに転校させるということではいいのか。緑の地区は塚田小学校に行かなければいけない、ということが確定的なのであれば、「現在、小学生の娘を先に塚田小学校へ転校させて、その下の子も塚田小学校へ入学させる」ということも考えようかと思っている。途中転校ということは可能なのか。そのような学区割になるということであれば、前もって動いた方がいいだろうと感じたのだが、そういうことは許されるのか。</p>
A21	船橋にとっても30年ぶりの新設校ということで、様々な面で丁寧に対応していかなければならないと思っておりますので、その点については、1度学務課に相談いただければと思います。

Q 22 - ①	平成34年度の新設小学校の児童数はどのくらいか。また、資料7ページの新設小学区・Bの地域から平成33年度に何人の児童が通うと推計されているのか。
A 22 - ①	平成34年度の新設小学校は、33学級、1,085人と推計しています。平成33年度のBの地域から通う児童数は、約170名と推計しています。
Q 22 - ②	資料の7ページに「平成28年6月のデータで、Bの地域からは244名」と記載があるので、これが平成33年には減少して170名程と推計されているということか。
A 22 - ②	その通りです。

Q23	北本町2丁目の地域は昔から、通っている学校が様々で、それぞれがコミュニティを形成していた地域であったと思うので、緑の地域とオレンジの地域について、選択制を残してもらうことは可能か。皆さん様々な意見が出たと思うが、行田東小学校と塚田小学校と新設小学校の選択制を残せば、その部分もクリアできると思う。推計や学校の人数を作ることは難しくなるのかもしれないが、元々5校から選択制の地域だったので、また選択制に戻すことを案の中に加えてもらうことは可能か。
A23	「本日の説明会の中で、そのようなご意見も出ました」ということは、学区審議会にお伝えします。しかしながら、現在の案で見ますと、新設小学校も塚田小学校も、1,000名近い規模の学校となっています。今までは選択制で児童が分かれていたところが、どちらかの学校に偏った場合、塚田小学校、又は、新設小学校が予定より大きくなってしまいう可能性があり、数字的に読めない部分が出てきてしまいます。ですから、この状況の中で選択制というのは、やはり難しいと考えております。

《 8月6日（日） 》

Q24	新設小学校の学区の説明があったが、中学校の学区についての議論の経過についても紹介をお願いしたい。
A24	新設小学校開校時（平成33年4月）の中学校区は、現在の中学校区と変わりはありません。しかし、小学校よりも少し遅れて、中学校においても教室数の余裕がなくなる見通しであるため、今回の学区が決定し、新設小学校が開校したら、その状態を見ながら中学校の学区を見直していきます。 また、行田中学校横に新設中学校の用地を準備しており、10年後くらいに中学校を建設する予定です。建設する場合には、数年前から学区の見直しをすることになります。

Q25	開校時に長女が6年生、次女が4年生である場合、一度、姉妹で市場小学校に通い続けると決めたら、長女が卒業した後、次女は卒業までの2年間、市場小に通い続けなければならないのか。長女が卒業した時点で、次女は新設小学校に転校するという選択肢はあるのか。
A25	お子様の学年やきょうだい関係によっては、現在の在籍校に卒業までいることができるかを示していますが、質問にあるような状態を想定していませんでした。そのため、今後検討させていただき、次回の説明会またはホームページ上でお答えします。

Q26	新設小学校において、校内に放課後ルームが併設される予定はあるのか。
A26	所管課と連携しており、新設小学校の学区がおおむね決まり、規模がわかれば、それに応じた規模の放課後ルームを施設内に併設する計画です。

Q27	<p>新設小学校の通学路の安全面が気になる。ゴルフ練習場の脇の道は歩道が狭く、線路脇の道を自転車やベビーカー、歩行者が通っており、通学以前に大人でも歩行が危ない。歩道には段差もあり、児童が落ちてしまうことのないよう歩道を拡張しているとのこと。通学路交通安全プログラムを設定して考えるとのことだが、そのあたりの安全面を十分に考えてほしい。また、今後、ゴルフ練習場脇の道をさらに拡張するということはないのか。</p>
A27	<p>道路部と鉄道事業者が周辺道路に関する協議をしていると聞いています。また、開校まで時間はありますが、すでに警察・道路部・教育委員会で現地を確認しています。ゴルフ練習場のところまでは、鉄道事業者に協力してもらいながら、道路を拡張する予定です。しかし、その先については戸建て住宅も多く、難しいということもあるため、通学路はその道だけでなく、北本町2丁目の中の道やいくつかの道を実際に歩いてみながら検討しています。今日、要望があった件については道路部に話をさせていただきます。</p>

Q28	<p>学校ができるにあたって、学校の住所、建物の大きさ、教室数、年度ごとに何名ほどの児童数を想定しているのかといった基本的なことが知りたい。予算がどれくらいか。施設内の校舎の位置とグラウンドの位置はどうなるのか。回答は後で個人的に聞く。</p> <p>基本的なことから、一般市民がわかるようにコミュニケーションとれるようにしてほしい。</p>
-----	---

Q29	<p>平成33年度に小学校5・6年生になる児童のみ、在籍校あるいは新設小学校への通学の選択ができるということだが、その他の学年の子たちは選択することができないのか。すべての学年において選択をできるようにした方がよいと思う。</p>
A29	<p>すべての学年において選択ができるということになりますと、新設小学校に児童がほとんど集まらないという状況も考えられますし、市場小学校に残る児童が多く、市場小学校があふれてしまうかもしれません。</p> <p>そのため、全員が選択できるということになるとかなり問題があります。5・6年生のみであれば、市場小学校に残ったとしても他の学校に残ったとしてもそちらの学校がいっぱいになることはありません。全体の学校のバランス等を考えると、全員選択というのは厳しいという見方をしています。ただし、ご意見として学区審議会にお伝えします。</p>

Q30 - ①	AGCテクノグラスの開発エリアの内部で幅の広い安全な通学のルートがとられるのであれば、電車を使って塚田駅から通学することは認められるのか。
A30 - ①	基本は徒歩圏内ということで、いろいろな通学のルートを検討しているところです。東武線沿線だけでなく、分散した通学路ということで何方向か検討しているところですので、通学路が確定した際には、道路部・警察と安全対策を実施していきたいと思います。 また、道路形状等については、ご質問いただいた内容を関係課の方に伝えさせていただきたいと思います。
Q30 - ②	もし電車通学を想定していないということであれば、電車通学を想定される家庭も少なからずあると考えるので、検討いただきたい。

Q31	トーカロ株式会社の工場は今後も引き続き稼働していく予定なのか。将来的にはなくなるということはあるのか。
A31	トーカロ株式会社の考え方はこちらではわからないのですが、今のところは現状通りあると考えています。

Q32	今後、学区についての相談や要望はどちらにすればいいのか。
A32	学区についてのご相談は、教育委員会学務課学事係が担当になります。

Q33 - ①	子供が東武線沿いの道を通って行田東小学校に通っている。5・6年生の場合は行田東小学校を選ぶこともできるということなので、行田東小学校に通う子供と新設小学校に通う子供の通学路が重なっている。この点についてどのように考えるか。
A33 - ①	行田東小学校の通学路につきまして、平成28年度に通学路交通安全プログラムの定期点検を実施したところです。今回の開発に伴い、学区や通学路等に変更が生じることも考えられますので、開校前に安全整備を済ませたいと考えています。
Q33 - ②	例えば、新設小学校と行田東小学校の通学時間をずらすなどすると、そこを通る子供の人数が変わってくるが、そのようなことも含めて考えてもらえるということか。
A33 - ②	通学路が重なる場所には必要な安全対策、例えばスクールガードの方に見ていただくとか、状況に応じて関係校で相談をしていくことになると思います。今は具体的なお約束は出来ないのですが、そういった課題があることは認識しておりますので、それについての安全対策は担当課としっかりしていきます。

Q34	学校の新設に伴って、建設車両がかなり多く通学路内に入ってくると思うが、その点についてどのように考えるか。
A34	開発がある場合には必ず教育委員会に届け出をすることになっています。その届け出の際には、たとえば通学路の工事車両の出入り口にガードマンを配置するだとか通学路の安全確保について十分行われるように話をさせていただくつもりです。

Q35	AGCテクノグラスの跡地で700～800戸ぐらいの大規模開発を予定していると聞いたが、資料13ページ「(仮称)塚田第二小学校通学区域(案)に基づく推計」の数値は新しい開発地を含めての推計値なのか。
A35	AGCテクノグラスの跡地の開発は、数値に含まれております。

Q36	資料13ページ「(仮称)塚田第二小学校通学区域(案)に基づく推計」の市場小学校の推計値がすごく少ないが、学区再編成をしないのか。
A36	市場小学校に面した北側にJRの社宅があります。今のところは大規模開発の計画はないようですが、今後、大規模開発化する可能性も否定できないと思っています。また、市場小学校と医療センターの真ん中あたりに東葉高速鉄道が走っていますが、ここに新駅を誘致して大規模な区画整理事業を行う計画があります。開発されるのはまだまだ先ですが、現在でもその一部が市場小学校の学区となっています。その他の大部分が八栄小学校の学区となっていますが、八栄小学校もこれ以上受け入れることは出来ませんので、この部分も大きく見直しを行うこととなります。市場小学校についてはこれからもかなり変動し、増えていく可能性があると思っています。

Q 37 -①	通学路に関して、この辺りは非常に狭い道しか記憶にないが、歩道を広げる等の工事・事業を起こしていく予定はないのか。
A 37 -①	東武線沿いの道だけだと、どうしても子供たちがそこに集中してしまうということがありますので、子供たちを分散させた通学路の候補を検討しているところです。道路拡張が可能と考えられるかどうか、通学路が確定した上で道路部・警察と関係機関と連携して安全対策を図っていきたいと考えております。
Q 37 -②	この段階で道路部と道路の話を協議してほしい。後で、通学路が狭くてどうしようもないという事態にならないようにしてほしい。
A 37 -②	今はまだ29年度ですが、早い段階で始めておりますのでよろしくお願い致します。

Q 38 -①	AGCテクノグラス跡地の裏手の山手3丁目に家がある。グーグルマップで調べたら学区の行田東小学校までは徒歩15分くらいだが、新設小学校だったら2～3分で行ける。AGCテクノグラス跡地の裏手の戸建ての人が新設小学校を選択できるのであれば、山手3丁目も新設小学校を選択できる方法を検討してほしい。
A 38 -①	今回の通学区域（案）では、新設小学校が学区の端にあるということで、新設小学校周辺の方々にとっては、近くに学校があるのにいけないという案になっていることに対して、大変申し訳ないと思っております。ただ、この案で1000人の30クラスです。30クラスを超えますと過大規模校ということになりまして、学校運営上も非常に厳しい状況になってきますので、どうしても30クラスでまずスタートしたいというところです。近くの地域まである程度学区を広げますと、30～50人という子供たちが増え、クラス数の増加につながってしまいます。ただ、これからの学区審議会には、そういったご意見も強く出ていますということはお伝えしたいと思います。
Q 38 -②	近くなのに行けないのか。希望したとしても行けないのか。 近くの人が入れなくて遠くの人が入れるというのは、おかしいと思う。
A 38 -②	希望校を選択できるということだと、教室が足りないとか大きな学校になりすぎるということがありますので、いまはこのラインがぎりぎりかと思えます。 十分検討してきたつもりですが、近くに行田東小学校と塚田小学校があるということが一つあります。近隣のどこまで線を引くかということに関しては、ここだったらといってもまたその線際の人たちがなんで私たちを入れてくれないのかということになります。
Q 38 -③	最終的に通学区域を決めるのは誰か。これが1回目だったらこれから考えなさい。まだ決めたらダメだ。
A 38 -③	まだこれは案です。ただし、かなりいろいろ検討した上での案の説明になります。今日いただいた意見については、学区審議会に伝えて再度検討することになると思います。ただ、かなりぎりぎりの線での案であるということについてはお伝えさせていただきます。

Q39	森のシティは大きいですが、学区の一番端から小学校まで、何分までが徒歩で通える範囲ということになっているのか。迂回の道も考えているということだが、1年生だと歩いてもなかなか進まない。
A39	文部科学省の基準というのがおおむね4 kmとなっていて、船橋市ではそれより短くおおむね3 kmとしています。今回の通学区域案では、森のシティの南が一番遠いかと思いますが、そこから新設小学校まではだいたい1～1.2 kmくらいの範囲になっています。時間的な基準はなく、距離的なものになります。

Q40	AGCテクノグラス跡地に700～800戸くらいの集合住宅と小学校ができるという話があったが、そのほかに何ができるのか、学校の周りの環境を教えてください。
A40	我々は全体の開発に関わっているわけではないのですが、こちらが聞いているところでは、(地図を示しながら)こちらの青いところが学校用地です。そして赤いところが、中高層住宅地区です。真ん中の方が、生活拠点地区となります。これは商業施設と聞いています。

Q41	今年新入学の児童に9月上旬に学校選択の通知を出すということだが、今日の議事録ならびに9月の学区審議会や10月の第2回説明会の内容を聞き、その方々がそこを十分熟慮したうえで、学校選択をするようにした方が幼稚園・保育園年長のお子さんの家庭にとってはありがたいと思うがどうか。
A41	新1年生に関しては、現在の状況を正確に伝えていくということはきちんとやりたいと思っています。また、新1年生の学校選択は期限内に一旦選択していただきますが、3月になりましてもぎりぎりのところで変更することは可能ですので、そういったことについてもきちんと対応していきたいと思えます。

Q42	通学路に関する要望です。細い道でも抜け道として使ったりということが想定される。また、裏道は非常に明かりが少なく、小学生が通学するのは少し危険かなと思うところがある。複数の通学路を検討いただくにあたり、道路を広げる広げないに加えて、車が通行するであろう場所や人通りが少ない場所に関して街灯をつけるといったものを含めての検討をお願いしたい。
-----	--

Q43	今日の話は道路が絡んでいることが多い。なぜこの場に道路部がないのか。
A43	本日は通学区域（案）の説明でしたので、教育委員会で行っています。次回の際は道路部に要請してみます。

Q44	教室がみんな西向きになるような配置計画になっていると思う。東武鉄道や工場の騒音を考えてということだと思うが、東西に長い敷地だからこうなってしまうのではないか。もう少し正方形に近い形というか、校舎とグラウンドが上手い具合にレイアウトできるような形で敷地を設定したらよかったのではないか。
A44	土地所有者のAGCテクノグラスさんに対し、私たちは学校が絶対に必要だということで交渉してきました。もう少し正方形に近い形の方が確かに理想でしたが、こういう結果になっております。

Q45	設計の基本構想というかコンセプトが全然見えない。例えば教室をオープンタイプにして多目的スペースをどれくらい設けて、どういう風な空間方針になるのか。あとは市民開放の方法とか災害時の使い方だとか、そういった情報をいただきたい。
A45	今日は施設課がないので詳しいことは申し上げられませんが、多目的スペースはそれなりにとって行く計画です。情報については、今のところ、平面図などはホームページに載せていますが、細かいことについては、然るべきときがあればまた詳しくお伝えできればと思いますが、現状ではここまでしか申し上げられません。

Q46	平成33年度に6年生、4年生になる子供が市場小学校に通っている。2人とも市場小学校に通ってもらえれば、運動会とか授業参観などの行事に行けると思うが、分かれてしまった場合、もし行事が同日になると両方を見てあげることができない。そういったところは考慮してもらえるのか。
A46	関係学校で極力、行事調整については図っていきたいと思います。しかし、選択の仕方によっては、2つ3つの学校と調整を図らなければならないことが出てきます。関係校としっかりと調整を図っていくのですが、特に運動会はどうしても1、2週間の間にやらなければならないという事情があったりしますので、どうしても同日になってしまうときには、丁寧に説明をさせていただきたいと思います。極力、そこは避けるように、日程的にうまく動かせるよう、6～7年間位は調整を図っていきたいと思っています。ただ、どう調整してもどこかの学校が同日になってしまうこともあるということをご承知おきください。